

## 平成29年度 農地中間管理事業に係る担い手との意見交換の実績

平成30年3月31日

### <担い手との意見交換実績>

20回（30経営体）

### <担い手からの意見>

- 平坦地域と中山間地域の担い手の取組み実績について、同じ数値（例えば集積率、集積面積）での評価でなく、地域貢献などの別の指標から評価する仕組みづくりが必要でないか。
- 担い手の借受け地が他の地域にあり、用水路の清掃や畦畔管理などの担い手の負担になってくる場合がある。担い手の規模拡大により、条件の悪い借受け地は解約をせざるを得ない場合がある。
- 中山間地域では地域住民の減少など、地域と担い手との連携が取り難くなり、畦畔管理など担い手の負担が多くなっている。
- 中山間地域では法面が大きく、草刈等の人件費が大きい。多面的機能も活用しているが、それでも厳しいのが現状。
- 地域への直払い（中山間、多面的）はあるものの、地域外の担い手へは交付されない。担い手への交付金（米の直払い）がなくなり、経営規模の小さい経営への影響は大きい。地域でなく、地域を守っている担い手への交付金の拡充など支援の強化をお願いしたい。
- 中山間地域の条件整備（圃場整備）は担い手の経営改善に重要であり、機構関連事業への期待も大きい。地域条件を考慮した更なる事業要件の緩和（例えば、下限面積5haなど）をお願いしたい。
- 樹園地（水田転作の柿）で放任園が増加している。果樹の抜根への補助など、水田化して活用することはできないか。
- 機構事業の活用のメリットがわかり難い。メリットがあれば活用している。
- 中山間地域では、特に、担い手の育成が大きな課題で、特に、条件の悪い地域では担い手不足となっている。
- 中山間地域での担い手確保には、農の雇用事業を活用している。本事業により従業員のやる気にも繋がっているが、事業期間がもう少し長い期間対応できるようになるとよい。

【開催の状況】

開催日(月・日)	参集者
5・22	果樹担い手(揖斐地域)
6・8	果樹担い手(恵那地域)
6・16	水稲担い手(恵那地域)
7・5	野菜担い手、新規就農者(飛騨地域)
7・19	野菜担い手、新規就農者(飛騨地域)
8・2	水稲担い手(飛騨地域)
8・4	水稲担い手(郡上地域)
8・15	水稲担い手(郡上地域)
9・6	水稲担い手(郡上地域)
9・8	水稲担い手(西濃地域)
9・13	水稲担い手(岐阜地域)
10・12	水稲担い手(郡上地域)
10・25	野菜担い手、新規就農者(飛騨地域)
10・30	水稲担い手(恵那地域)
1・25	水稲担い手(恵那地域)
1・31	水稲担い手(揖斐地域)
3・1	水稲担い手(全域地域)
3・15	水稲担い手(飛騨地域)
3・27	野菜担い手(飛騨地域)
3・30	果樹担い手(恵那地域)